

## 8 学生事務局

### 学生事務局長総括

今年度の学生事務局では、ボランティア活動をしている学生たちをつなぐことを目的として掲げ、イベントの企画運営と他大学との交流により力を注いできた。

実際にイベントは三つ開催することができた。一つ目は、「防災訓練&非常食ワークショップ/セッション対抗レクリエーション」だ。〇×クイズや非常食の体感ワークを通して、日常防災の大切さを感じてもらうことができた。二つ目は、「学生ボランティアフェス」だ。本学ボランティアセンターの創設20周年を祝い、未来への一歩となる場としてこのイベントを企画、実施した。全員参加型のトークセッションや講演会を通して、「ボランティアとは何か」という問いを参加者一人ひとりが改めて考えることができたのではないだろうか。三つ目は、「活動報告会」だ。毎年開催をしているため、マンネリ化からの脱却が課題であったが、グループワークの内容や構成を事務局メンバーで再考した結果、「来て良かった」と思ってもらえるような会を創りあげることができたと感じている。

他大学との交流会は、ボラセンの見学と活動紹介が中心ではあったが、活動をしている中での悩みや思いを共有する場面も多く見られた。自分たちの活動や人生を紡いでいくうえで、新たな発見や刺激をもたらした時間となった。

今年度はミーティングも含め、学生メンバー同士が、直接顔を合わせて話す時間が増えたことにより、事務局の企画だけではなく、それぞれのセッション活動も、より活発で学生主体のものとなってきたように思える。私たちが活動を展開することができる背景には、職員やOBOG、地域の皆さんのサポートや応援があることに感謝の気持ちを忘れず、行動や態度で示しながら、来年度も「自分たちがやりたいこと」「自分たちにしかできないこと」をたくさん実現させて欲しい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

### ●2018年度「学生事務局」の主な活動

日にち	内容 (参加人数)
5/1 (火)	横浜キャンパス防災訓練&防災グループワーク & 学生メンバー交流会 (学生96名)
10/20 (土)	ボランティアセンター設立20周年記念イベント (学生42名、来賓4名)
12/1 (土)	ボランティアセンター活動報告会 (学生94名、来賓3名)

### ●2018年度他大学との学生交流

日にち	内容
8/27 (月)	日本社会事業大学との交流会
1/26 (土)	東海大学との交流会

## ◇横浜キャンパス防災訓練

目的	大学での避難の仕方と避難所で起こる問題を体験/学生メンバーの交流
場所	横浜キャンパス
活動内容	避難訓練/学生メンバーオリエンテーション
活動日時、 参加人数	2018年5月1日(火) 9:00~15:30 学生96名

## 実施概要

大学構内にいるときに大地震が発生したことを想定し、避難訓練を実施した。この訓練は大学構内の避難場所を理解するためのものである。避難後、学生メンバーによる防災〇×クイズ、非常食の試食&グループワークを行った。

午後はボランティアセンターの学生メンバー全体のオリエンテーションとして、事務局企画のセクション対抗レクリエーションを実施。ジェスチャーゲームと借り物競走を行い、セクション間の交流だけでなく、他セクションの学生メンバーとの交流、新入生との交流をする貴重な時間となった。

## 感想・活動を通して得た学び

今回の避難訓練を通して、どのように行動すれば良いのか身をもって体験することができたため、実際に災害が起きてしまっても、今回のことを思い出し行動できるのではないかと思う。防災〇×クイズでは防災知識を再確認することができた。また非常食に関するワークショップを行うことで、調理する際、食べる際の問題を体験することができたため貴重な機会となった。

セクション対抗レクリエーションでは、借り物競走をすることにより多くの学生メンバーと交流する機会をつくることができた。参加した学生メンバーからは「たくさんの学生と話すことができ楽しかった」「新入生とも仲良くなることができた」などの意見が多く挙がった。

## 今後に向けて

今回の防災訓練を行うことで、避難場所の確認とともに、避難場所で起きる問題を実際に体験することができた。そのため避難場所で起きる問題に対し、各自がどのように行動すれば良いか考える貴重な機会となった。今回はボランティアセンターの学生メンバーおよび戸塚まつり準備会のメンバーが中心であったため、今後は他の学生を巻き込んでいきたいと考える。

セクション対抗レクリエーションは、1年の始まりに交流する機会を設けることができたためその後の活動にも生かすことができたと感じる。次回も今回の経験を生かし、学生メンバーが交流する機会を企画していきたい。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

## ◇日本社会事業大学との交流

目的	他大学のボランティアセンターや学生メンバーの活動について知る
場所	白金キャンパス ボランティアセンター/1407教室
活動内容	それぞれの活動発表、意見交換
活動日時、 参加人数	2018年8月27日(月) 10:30~12:30 学生メンバー3名、日本社会事業大学の学生5名

## 実施概要

日本社会事業大学ボランティアセンターの学生メンバーと交流し、お互いの活動紹介、ボランティアについての意見交換会を行った。活動紹介では、パワーポイントを使った発表のあと質疑応答の時間も設け、理解を深められるような時間となった。その後の意見交換ではボランティアをされていて良かったこと、悩みなどを出し合い、さまざまな意見に触れることができた。それぞれが自由に発言できる、とても穏やかで話しやすい雰囲気であった。

## 感想・活動を通して得た学び

今回参加したのは全員で8人と少人数での意見交換だったが、その分一人ひとりが発言することができて、全員がしっかりと参加していた会であったと感じた。また、1年生から4年生まで全学年の学生が参加していたため、ボランティア経験の多い人や始めたばかりの人など、さまざまな視点の意見を聞くこともできた。お互いが行っているボランティアセンターとしての活動は大きく異なっていたが、それが新しい発見にもつながり、自分の活動に生かせるような工夫も学ぶことができた。

## 今後に向けて

他大学の学生と関わることで自分の活動や所属団体だけではわからないことに気づくことができ、これからの活動に生かすこともできるため今後も続けていくべきだと思う。しかし、今回は参加したメンバー以外の学生たちに、得た情報を共有することがあまりできなかつたと感じている。そのため、参加して学んだり関わりを作るだけでなく、得た情報の共有という点も視野に入れて交流を目指していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ◇20周年学生イベント（学生ボランティアフェス）

目的	明治学院大学ボランティアセンターの20周年を記念したイベント
場所	横浜キャンパス クララ・ラウンジ
活動内容	学生の活動紹介/ボランティアを見つめ直すためのトーク会
活動日時、 参加人数	2018年10月20日（土）12:00～18:00 学生42名、来賓4名

## 実施概要

ボランティアセンター設立20周年にちなんで、ボランティアセンター学生事務局によるイベント。3部構成のイベントで、1部ではボランティアを行っている学生がそれぞれでブースを出し、来場者に向けて活動を紹介した。2部での初代センター長加山久夫先生による公開講座を経て、3部では、「ボランティアをしたら私はこうなった ～ボランティアの光と影～」と題した、会場全体を巻き込んだフリートークを行った。

## 感想・活動を通して得た学び

イベントの3部では、ボランティアとは何かなど、活動を行っている時にはなかなか考えないことを考え、イベント参加者と意見交換をした。そうすることで、普段は見えない、個人が大切にしていることなどが見えたので、とても温かい気持ちになった。同じ活動をしていても、持っている気持ちや感じ

ていることが違うということを知ることができ、そのような違いが、ボランティア活動をより一層鮮やかな活動にさせるのではないかという可能性を感じた。

#### 今後に向けて

このイベントを通じて、私はボランティアへの人と人をつなぐという大きな可能性を感じた。特にイベントの3部では、来場者（自分も含め）は知り合いではない人も交えてフリートークをしなければならなかった。それにもかかわらず、良い意味で熱を帯びた話し合いになった。それは、皆が真剣に自分と向き合い正直な話し合いをしたからだろう。“ボランティア”を通じ、皆が通じ合ったということが言えるかもしれない。この経験を生かして、来年度はさらなるボランティア学生の交流を活性化させたい。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

### ◇2018年度ボランティアセンター活動報告会

目的	ボランティアセンターに所属する各セクションが一堂に会し、年間の活動を報告する
場所	白金キャンパス 3101 教室
活動内容	各セクションの年間の活動報告/学生交流
活動日時、 参加人数	2018年12月1日(土) 13:00~17:00 学生メンバー94名、来賓3名

#### 実施概要

2018年度のボランティアセンターの活動報告会は、各セクションが1年間の活動および成果、課題を発表することで自らの振り返りを行うと同時に、来年度に向けて活動の意欲を新たにする場である。今年度は、7セクションに加え学生事務局が発表を行い、日頃からお世話になっている方々や他セクションからのさまざまな意見を受け、新たな発見を生み出す機会でもあった。

2部では、セクションを超えた学生同士の交流を目的にさまざまな企画を行った。

#### 感想・活動を通して得た学び

1部の発表会では活動を真剣に報告する姿勢で、2部の交流会では普段なかなか関わることのない学生同士が打ち解けた雰囲気に参加していたことが印象的であった。それによって、メリハリを持って相互に交流する場を作ることの重要性を学ぶことができた。加えて、報告会の運営に関わることで自セクションの活動がボランティアセンター全体の活動でもあると再確認することができた。他セクションの活動はとても興味深く、自セクションに取り込むことができないかという目線でも大いに参考になった。

#### 今後に向けて

自セクションへの評価で、「もっと伸びしろがある」「もっと良くしたい」などの前向きな意見をアンケート結果から多数読み取ることができた。この意欲を生かして活動の輪を広めることができるようにしていきたい。そのためにも、20周年の節目を迎えた後もセクション間のつながりを強くする活動が引き続き行われていることが大切である。報告会後の反省会で挙げた、2部のグループ分けの方法や報告会の意図をわかりやすく学生に伝えるなどの点を改善し、より多くの協力が得られる活動を展開していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)